

2011.10.12 哲学カフェ

「話がかみ合わないとは どういうことか？」



ある哲学カフェで参加者の一人が「おかしなことを言う人がいたら、進行役はそれを指摘するべきだ」と言っているのを目にした。「それは参加者同士で解決してください」といったようなことを進行役は答えていたが、当の参加者は納得していない様子だった。それ以来、私は哲学カフェがどのようなもので、その進行役がどのような存在なのかずっと悩んできた。

哲学カフェについて参加者が考えていること／期待していることは、必ずしも一様ではない。哲学カフェは自由に話したいことを話す場だと考えている人もいれば、論理的に議論をする場だと考えている人もいる。だからそれぞれの参加者が期待した通りの哲学カフェを実現することは、実はなかなか難しい。

(報告：森本誠一／大阪大学大学院生)

学校と教育を考える哲学カフェ

神田古書店街のカフェで開かれる哲学カフェ。偶数月は「学校と教育」にテーマを絞って考えます。これまで「教育と個性」「学校の存在理由」「校則」などさまざまなテーマで対話してきました。学校と教育について対話しながら掘り下げて考えてみたいすべての方々を歓迎します。特に（学校の種別を問わず）現役の教員の方々の参加を歓迎します。

日時：偶数月の土曜日または日曜日の午後
会場：Cafe Klein Blue

（地下鉄神保町駅より徒歩2分）

進行：寺田俊郎

（上智大学教員／カフェフィロ）

費用：各自の飲み物代（500円～）

問い合わせ先：cafephilott@gmail.com



賛助会員募集！

カフェフィロでは、活動に賛同し応援してくださる賛助会員を募集しています。会員の方には、『哲学喫茶』最新号とニュースレター『哲学喫茶瓦版』を送付させていただきます。また、カフェフィロが主催する有料セミナーを特別価格で受講していただけます。

年会費 1口 3,000円

お問い合わせ先

info@cafephilo.ne.jp (カフェフィロ事務局)

CAFÉ PHILO (カフェフィロ)

2005年、大阪大学・臨床哲学研究室のメンバーを中心に発足。哲学カフェ、哲学対話セミナー（こども／大人対象）など、哲学の対話を促進する活動を展開中。「社会のなかで生きる哲学」のあり方を探り、それを実現するとともに、哲学とともに生きる人たちをサポートする組織です。

〒537-0023

大阪市東成区玉津3丁目8-6 ロイヤル丸文Ⅱ406号室 たまてばこ内
e-mail : info@cafephilo.jp

<http://www.cafephilo.jp>

哲学喫茶瓦版

NEWSLETTER FOR PEOPLE LIVING WITH PHILOSOPHY FROM CAFÉ PHILO

2011
12

特集：子どもと哲学

- review
- interview
- Rookies!

ワークショップ「絵をみて話そう こどもの哲学アトリエ」
小学校で哲学の授業：金澤正治さん（西宮市立香櫞園小学校教員）
高校で哲学対話の授業を実践：楠本瑠子さん（大阪大学文学部4回生）



ワークショップ 「絵をみて話そう こどものてつがくアトリエ」

芦屋市立美術博物館の「アートピクニック－美術をたのしむ」展の関連イベントとして、8月27日、

「こどものてつがくアトリエ」が開催されました。

元気いっぱいどんどん言葉が出てくる子、じつと絵を見つめる子、ぴったりの表現をじっくり考える子、と、ボールを持ったときの反応は、みんなそれぞれ。高橋さんは、質問にすらすら答えることではなく、考えてみると、他の人の意見をきくことを、大事にしています。参加してくれた子どもたちからは、「楽しかった!」「ほかの人の想像力がすごいなと思った」「自分は気づかなかつたことに気づいている人がいた」といった感想が寄せられました。

お母さんのひとりはいいます。「家庭や学校では、『それは違う、間違っている』と言われない環境で話すことは難しいので、こういう時間は大切だと思います」。きっと、大人にとっても、そんな時間は大切なはず。アートと、目とこころの想像力を楽しむワークショップ、これからも開催していきたいです。（報告：井尻貴子）

最初に講師の高橋綾さん（カフェフィロ代表）が取り出したのは「コミュニケーション・ボール」。このボールを持っている人が話す、というルールを伝えます。「何が描いてある?」「みんなは、ぼつていう字がある」「動物が描いてあるよ」など、いろいろな発見が出てきます。ひととおり、何が描いてあるか話したあとで、「この絵は好き?嫌い?どうして?」と尋ねる高橋さん。質問され、「どうしてか」と考えることで、自分にとっての、好き・嫌いの判断基準がすこしみえてくるよう。

この絵のなかにどんなものを見つけたかな?」という高橋さんの質問に「鳥居!」「漢字の田んぼ」など、いろいろな発見が出てきます。ひととおり、何が描いてあるか話したあとで、「この絵は好き?嫌い?どうして?」と尋ねる高橋さん。質問され、「どうしてか」と考えることで、自分にとっての、好き・嫌いの判断基準がすこしみえてくるよう。

この絵のなかにどんなものを見つけたかな?」という高橋さんの質問に「鳥居!」「漢字の田んぼ」など、いろいろな発見が出てきます。ひととおり、何が描いてあるか話したあとで、「この絵は好き?嫌い?どうして?」と尋ねる高橋さん。質問され、「どうしてか」と考えることで、自分にとっての、好き・嫌いの判断基準がすこしみえてくるよう。



話し合っていってるのはな、
せなやつていかれへんねん。

きみの思う哲学の授業ってどんな?

「何歳から哲学できると思いますか?」と尋ねたら、こんな応えが返ってきた。いろんな人に同じ質問をしてみたけれど、こんなふうに質問で返されたのは初めてだ。その様子を見ていた高橋綾さん(カフェフィロ代表)が、笑って言った。「金澤先生は、哲学者やからね。」

教師歴25年の金澤先生が哲学の授業を始めたのは、2006年。研究授業の担当になり、ファシリテーションやワークショップについて色々勉強してみたものの、なかなかピンとこない。迷っていたときに、大阪教育大学時代の恩師に誘われて子どもの哲学研究会に参加した。そこで、本間直樹さん(カフェフィロ副代表)、高橋綾さんと出会い、以来一緒に、総合学習や道徳の時間を使って、哲学対話の授業を試みている。絵本を用いて、美術館で絵を鑑賞しながら、質問する役と質問に答える役に分かれて(相互問答法)、フラフープやコミュニケーションボールなどのツールを使って……と方法や媒体は様々だが、「話し合いを通して自分たちの想いをみたいなものを交流する」という点では同じだ。相互問答法は3年生、フラフープを用いたワークは1年生と、低学年のクラスでも実践されているという。

「でも、それを『しょーもない』と思うか、『すごい』と思うかは、その人の判断によるよね。『すごい』って感じれる人もいるし、感じられない人もいる。何歳からできますかって訊く人は、たぶん、あるテーマについて小難しく話し合うことはできるかって訊いてると思うねん。対話の授業をみて、これを『哲学の授業や』って言っても、『それは哲学の授業じゃない』って言うんや、そういう人は。だから、そんなことを訊く人には、逆にきいたらなあかん。『あなたの思う哲学の授業ってどんなですか?』って。哲学っていうものに対してもってるイメージがみんなバラバラやから」

「答えさえあれば安心」は幻影

金澤先生は同じ考えでも、本ではなく、身近な友だとの話し合いを通して知ることが大事だと考えている。「ぼくらは『ああ、あの人は僕と同じようなことを考えてんねんな』って思う機会って少ないよね。それって、けっこう孤独感があるんよ」。身近な、自分と同じ年の、人間からいろいろなことを聴いて共感したり感じたりする。子どものなかにそういう機会をつくることが大切だ。

生徒のなかには、「なんで話なんかするんですか? 答えを教えてくれたらいいじゃないですか」と言う子もいる。「そういう人たちは、効率的に早く覚えて、早くアウトプットする練習をして、それで受験というペーパーテストに勝利していくことに慣らされてるわけよ。『話し合いなんか無駄や、そのあいだに問題一つでも解いて』って思ってる。でも、それはな、そういう体験がないからやねん」。

金澤先生が「話し合うことは無駄じゃない」と自信をもっているのは、大学時代にゼミや合唱部で、頭ではなく、自分の経験を通して体感したからだ。この指揮者は1年間耐えられるのか、指揮者の能力はどうなのか、先輩の家で二晩ぐら泊まり込んで話し合った。

「会社にとって『僕は100点とれます』いうても、仕事なんてできんのはわかるやろ。誰かと話し合ってやっていかなかんねんで。いろんな人とやっていかなあかんねん。だから、話し合うことはせなやつていかれへんねん。たぶん。」

「『答えさえあれば安心できる』、そんなんは幻影やねん。『まとめてほしい』、『それで納得したい』、それはおまえだけの満足やっちゅうねん。そうじゃなくて、みんなと話し合って楽しかったなとか、ちがう人の意見をきけてよかったなって思うことが、人を尊重するとか、人と暮らしていくっていうことなんやろうと思うで。」

(聞き手: 松川絵里/カフェフィロ)

Rookies!

高校で、哲学対話の授業を実践

楠本 瑶子さん

楠本さんは、大阪大学文学部4回生(倫理学研究室所属)。2年前から、大学の有志メンバーとともに京都の洛星高校、神戸の友が丘高校などで哲学対話の授業を実践しています。



-なぜ高校で哲学の授業を?

大学で哲学対話の授業をうけて、「対話をとおして考えることって面白いなあ」、「高校のころにこういうのがあってもいいなあ」と漠然と思っているときに、先輩の中川さん(カフェフィロ正会員)が実際に洛星高校でされているということをきいて、ついいったのが最初です。洛星高校には、総合的な学習で大学の授業に触れるという枠があるので、その時間を使っています。

面白かったです。普通の授業だったら、あんまり自分の考えを気軽に言う機会ってなくて、必ず正解が用意されてたりとか、先生の期待に沿うように言おうとか、そういうことが多いけど、対話の授業だと、普段考えることとか疑問に思っていることがぱろっとてくる。あ、この人はこういう話題に興味があるのか、とわかったり。

-高校生にとっての意義

高校生っていわゆる教科書の問題を解いて答えるっていうことが多くて、必ず、参考できる答えがある。でも(人生には)必ずしも答えがあることばかりじゃないので、そういう問題に直面したときに

も、考えて、その問題にアプローチできればなあということを、今年はメンバーで話しています。

-先生役の難しさと面白さ

授業を考えるのはけっこう難しくて、一緒に話して考えようと思ってやっているんですけど、どこまで誘導というか、ひっぱっていくかっていうことを、いつも迷います。でも、自分にとっても、高校生の生徒さんと話すことによって、高校生のときのことや、いま自分がやっていることについて再発見できたりします。

(聞き手: 松川絵里)

2011年8~10月 カフェフィロ活動一覧

8月3日	新・哲学セミナー「ニーチェ『ツアラトウストラはこう言った』を読もう(3)」 アートエリアB1 菊地建至
8月6日	セミナー: 哲学カウンセリング入門 とよなか国際交流センター 高橋綾
8月7日	哲学カフェ konan 2011 「日本のアイデンティティ」 すいとぴあ江南 松川絵里
8月10日	哲学カフェ「身ぶりは何を語るのか?」 アートエリアB1 楠本瑠子
8月20日	セミナー: 哲学ファシリテーション入門 とよなか国際交流センター 本間直樹、松川絵里、井尻貴子
8月21日	セミナー: 哲学ファシリテーション入門 とよなか国際交流センター 高橋綾、中川雅道、井尻貴子
8月26日	哲学セミナー「心を読む? 言語的/非言語的コミュニケーション」 アートエリアB1 玉地雅浩
8月27日	哲学カフェ「学校教育にとって国旗・国歌はどのような意味があるのか?(2)」 Cafe Klein Blue 寺田俊郎
8月28日	メディカルカフェ「詩の中の死」 カフェP/S 中岡成文
9月5日	テツドク! 神谷美恵子『人間をみつめて』他 さする庵 高山佳子
9月13日	哲学カフェ「見えないものはなぜ恐いのか?」 神戸市北区子育て支援センター 松川絵里
9月13日	哲学カフェ「見えないものはなぜ恐いのか」 アートエリアB1 辻明典、本間直樹
9月17日	哲学カフェ「私らしさって?」 とよなか国際交流センター 川崎唯史
9月17日	哲学カフェ「〈私たち〉とは誰のこと?」 Cafe Klein Blue 寺田俊郎
9月18日	哲学カフェ「選択の自由とは言うけれど・・・」 コーヒーショップJUN 榎本直樹
9月18日	哲学カフェ「昔に戻ることはできるか」 カフェサンナミジ 本間直樹
9月23日	シネマ哲学カフェ「ちいさな哲学者たち」 京都シネマ/kara-Sイベントスペース 高橋綾
9月28日	書評カフェ『コミュニケーション能力がない』と悩むまえに』 アートエリアB1 三浦隆宏
10月12日	哲学カフェ「話がかみ合わないとはどういうこと?」 アートエリアB1 森本誠一
10月16日	哲学カフェ「信じるってどういうこと?」 カフェサンナミジ 佐藤泰子
10月21日	上映会「日本在住フィリピン人の声を聴く」 アートエリアB1 平松マリア
10月22日	哲学カフェ「学校文化」 Cafe Klein Blue 寺田俊郎
10月29日	哲学カフェ「人はなぜペットを飼うのか?」 千里文化センター・コラボ 高橋綾
10月30日	くおひとりさま>カフェ: 老いと向き合うために「良寛」 カフェP/S 伊藤忠清、藤本啓子

